

わが街 ザ・ドクター

◀1面より続く

大事な歯の役割を 守るために

そもそも、歯は何のためにあるのか——。関端先生は、こう話す。

「歯には、大きく二つの役割があります。一つは、食べものを噛み砕いて唾液と混ぜ合わせ、飲み込みやすくさせること。もう一つは、咀嚼すること、脳にさまざまな情報を伝え、脳がより活性化することによって健康を維持していくことです。」

唇、舌、歯、歯肉、上顎、下顎、咀嚼筋、顎関節などの総合的な運動は、触覚、味覚、嗅覚などを通じて大脳辺縁系（喜怒哀楽などの情動を担当する部位）と深くつながっています。つまり、なるべく多くの歯があり、正しく機能していれば快適な咀嚼ができる上、脳をより活性化できるということになるのです」

関端先生は、非常に研究熱心である。2006年には原著論文（日本歯科管理学会／共著）「歯科医院での長期メンテナンス受診者における歯の喪失リスク」を発表。これは、関端先生のもとで10年間メンテナンスを行った患者さんたちが対象だ。「この間に抜歯した原因のトップは歯根破折（歯の根が折れたり割れたりする）、二番目は高度な歯周病でした。論文では、歯髄の積極的保存、過剰負担を避け、効果のある口腔清掃習慣の確立が必

わが街 ザ・ドクター

医療法人社団
セキハタ歯科医院 理事長

関端 徹



顎関節を起点とした 総合歯科治療を実践

平均寿命は延びているが、健康寿命（制限なく生活できる期間）との差である「不健康な期間」は男性では約9年、女性では約13年もある。そこで健康寿命を保持するため「いかに多くの自分の歯を残すか」をテーマに、生涯自分の歯でおいしく食べ人生を謳歌できるよう独自の歯科治療を実践しているのがセキハタ歯科医院の関端先生だ。「口は、テコの原理によって

小さな力を増幅させて食べものを咀嚼する仕組みなので、作用点の歯や歯周組織だけでなく、支点となる顎関節の状況も把握する必要があるため、初診相談後の口腔ドック（精密検査）の結果から、咀嚼機能をより快適な状態に導く予知性の高い診断と治療計画を提供しています。さらに独自の予防プログラムで口腔細菌に対するセルフケアを習慣化し、治療計画に基づく治療を進め、初期目標の達成後は、定期的な咬合管理型検診に移っていきます」

◀3面に続く

要不可欠だと結論付けました。その後、有髄歯の破折が起こったり、清掃習慣は完璧なのに歯周病の重度化が進む症例も散見し、その原因がわからず悶々としていました。

そんな中2011年に、渡米して開業した友人の歯科医から『Dr.Mark A. Piperは、顎関節の内部変化による咬合の変化が起こりうるので、咬合を考えるとときは Foundational Occlusion（顎関節が咬合の土台であり、この関節を安定させて初めて安定した咬合を作ることができるという理論）が重要だと示唆している』と紹介されました」

このとき頭を稲妻で撃たれたような衝撃が走ったことを、関端先生はいまだに覚えているといいます。顎関節が変化すれば、顎関節とつながっている歯列も変化せざるを得ない。歯列が変化するということは、噛み合わせが変化するということがある。土台の顎関節が安定していなければ、噛み合わせが不安定になるのは自明の理、ということになるのだ。

健康寿命につながる 顎関節と咬合の安定

それまでの理想的な咬合治療理論 Functional Occlusion では、顎関節と咬合の関連をあまり考えず、歯を中心とした咬合理論で組立てられていたという。

「顎関節は、どこにあるのかわかりにくい存在感の薄い関節ですが、考えてみると膝の関節の使用頻度と比べて、ずっと多い。それだけでなく、ほかの関節と違って前方に回転しながら移動して開口す

るといふ複雑な構造を持つているので、間違った使い方をすればガタが来るのは当然といえます。

日本人の場合、臼歯部の喪失の多くは50歳以降に起きてくる傾向があり、この原因は「むし歯」や「歯周病」と言われていますが、私の25年におよぶ定期検診のデータと、自身の実体験からすると、『顎関節が変化することによって咬合が変わり、その咬合の偏りが特定の歯に異常な圧をかけ、致命的なダメージ（破折や歯槽骨の吸収）を与えてしまっているのではないだろうか』と

関端先生は、この臨床の事実を多くの歯科医に伝えたいと思い、2016年に「症例報告／長期的な歯科医療の管理における難症例の経過についての検討」という論文（日本歯科管理学会）を発表し、さらに2018年には「咬合の不調和による異和感に対する診断・治療計画に与える顎関節疾患の役割」日本顎関節学会顎関節症の病態分類とPiperの分類との比較検討」という原著論文（日本健康医療学会）を発表した。そうした治療に関する経緯や考察、治療法の意義などに

ついでには、セキハタ歯科医院のホームページにびつしり書かれています。

「昨今、当院のホームページをご覧になり、噛み合わせによる不定愁訴を持つ患者さんからの相談メッセージが多く寄せられています。噛み合わせに関する悩みがあり困っている患者さん、いつまでも歯を大切にしたいと思っている患者さんのためにPiperの考え方が普及してほしいと思っております」

咀嚼系の総合的な治療やメンテナンス型定期検診の重要性を提唱する関端先生のお話の中で、強く印象に残ったのは「髪の毛や老眼などのように、老化が原因で歯がなくなっていくわけではない」という一言。鍵を握るのは顎関節なのである。

「咀嚼で大事なことは、ゆつくりと、食べものの味や香りを楽しみながら食事をする。この『精咀嚼』ができることを目標にした治療を行い、顎関節と咬合の安定を保持していくことにより、活力のある人生を歩むことができます。」

健康寿命の伸延の一助になれば、歯科医としての望外の喜びです」



医療法人社団セキハタ歯科医院 理事長

関端 徹

（せきはた・とおる）
歯学博士。岩手医科大学 歯学部を卒業。長崎大学大学院 医歯薬総合研究科 健康予防講座 口腔保健管理学分野修了。1982年に開業、1999年に現在の場所へ移転。日本歯内療法学会専門医、ジャパンオーラルヘルス学会認定医、日本健康医療学会認定医、日本顎鏡歯科学会認定医。

●医療法人社団セキハタ歯科医院

〒336-0022 さいたま市南区白幡 4-23-11
SDAビル 5F・6F
JR 東日本 埼京線「武蔵浦和駅」より徒歩7分
JR 東日本 武蔵野線「武蔵浦和駅」より徒歩7分

- 診療科目：歯科
- 電話：048-839-8020
- 電話受付時間：10:30～16:00
- ※初診の受付は12:00～13:00、毎月3名様まで
- 診療時間：平日 10:00～14:00 15:00～17:00
- ※診療内容により最終時間は異なります。
- 休診日：木曜、日曜、祝日